

平成29年度 学力向上推進プラン 4年

		学年の目標	2学期末の児童の様子	3学期末の児童の様子
基礎・基本	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の定着を図るために、ミニテストを週1回程度実施します。学年末テストで90点以上を合格として、8割以上の児童が合格できることを目指します。</li> <li>学習して身に付けた読み書きの力を生活に生かせるようにするとともに、日常的に書く力を高めるために、日記を書く活動を週に2回行います。そして、「主語・述語の関係が成り立っている文を書くこと」「様々な分野の文章を書くこと」「既習の漢字を使って書くこと」を重点的に指導していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字ミニテストを定期的の実施し、2学期の終りに約半数の児童が合格しました。学年末の50問テストでは約半数が90点以上を合格し、再テストで約7割が合格しました。</li> <li>日記を週に2回継続し、様々な分野の文章を書きました。主語・述語の関係を意識している児童は多いが、誤字脱字や既習の漢字を平仮名で書く児童が少なくありません。今後は、自分で書いた文章を読み返したり、国語辞典を使って既習漢字を調べたりすることを指導します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字ミニテストを定期的の実施し、3学期は約8割の児童が合格しました。学年末の50問テストでは約半数が90点以上を合格し、再テストで約8割が合格しました。普段書く文章の中で既習の漢字が使えない児童がまだ少なくないため、漢字や熟語を繰り返し書いて覚えるだけでなく、文章作りをするなどして実践的に使えるようにすることが今後の課題です。</li> <li>日記を週に2回継続し、国語辞典で既習の漢字を調べる習慣が身に付いた児童が増えました。学校行事やオリンピックなど、自身の体験やニュースで見聞きた話題について自分の考えを意欲的に述べるようになった児童が増えました。</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算スキルを活用して、既習事項の定着を図ります。必ず答え合わせを行って間違いを直す習慣を付けられるようにします。</li> <li>東京ベーシックドリルを活用して、3年生までの基礎的な学習内容の習得を目指します。9割の児童が80点以上獲得できることを目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習を中心に計算スキルに取り組みました。授業の初めに答え合わせをし、既習事項の定着を確認しました。今後は、自分自身で答え合わせや間違い直しができるよう、指導します。</li> <li>東京ベーシックドリルを補習教室や家庭学習週間に活用し、既習学習の復習を行い、3年生までの基礎的な学習内容の平均点は77点で、得点が80点以上の児童は、全体の約5割です。今後も、ベーシックドリルや診断テストなどを活用して基礎計算の復習をし、9割の児童が80点以上獲得できるよう指導します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して計算スキルに取り組み、自分で答え合わせができるよう指導しました。自分自身で答え合わせをすることで、自信で学習の理解度を自覚して分からないところを質問しにきたり、自主学習でドリルを活用したりする児童が増えました。どの部分で間違ったかを調べるために、途中の計算式や筆算をきちんと書くことを指導しました。</li> <li>東京ベーシックドリルを補習教室や家庭学習週間に活用し、既習学習の復習を行いました。また、算数の小数のかけ算・わり算の学習で、かけ算の仕方やわり算の仕方を復習することができたため、3年生までの基礎的な学習内容の診断テストで得点が80点以上の児童が、全体の約8割になりました。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な事象についての知識を身に付けさせるために、都道府県の位置や名前を覚えられよう、カルタやパズルを用いて日常的に習熟していきます。また、地方ごとの白地図を用いたミニテストを実施していきます。学年末までに90%以上の定着を図ります。</li> <li>自然事象についての興味・関心を高め、知識を身に付けさせるために、ゲストティーチャーを招いて、篠崎公園にて年間4回校外学習を行います。</li> <li>学校図書館を活用して、週1回程度図書貸し出しを行い、読書に慣れ親しませます。普段から、すぐに本を取り出し活用することができる環境を整えるとともに、「読書ちよきん箱」に読んだページ数を記録させ、読書量の伸びが励みになるようにします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県テストで約6割の児童が90点以上を取ることができました。パソコンソフトの都道府県パズルなどを活用し、9割以上の定着を目指して指導を続けます。</li> <li>ゲストティーチャーを招き、春、夏、秋の計3回篠崎公園での校外学習を行い、自然の移り変わりに気付いたり、公園の植物の名前を覚えたりする児童が増えました。</li> <li>時間を見つけて読書に慣れ親しんでいる児童が多く見られます。今後も「読書ちよきん箱」に記録をするよう指導し、児童の読書量や読んでいる本の傾向を把握し、様々な分野の本を勧めるよう声を掛けます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートやパソコンソフトの都道府県パズルを活用し、各都道府県の形や位置を覚えさせました。都道府県テストでは、約9割の児童が90点以上を取ることができました。</li> <li>ゲストティーチャーを招いて行った年4回の篠崎公園の自然観察では、身の回りの自然が四季を通じてどのように変化するか目に向けたり、動植物の名前を覚えようとしていたりする児童が増え、地域の自然に対する興味関心が高まりました。</li> <li>読書や調べ学習で学校図書館を利用しました。特に3学期の総合的な学習の時間の「オリ・パラ調査隊」では、図書館の十進分類表の意味や百科事典の使い方を通して調べ学習に必要な図書を探すことができる児童が増えました。</li> <li>時間を見つけて読書をしている児童は多く見られますが、「読書ちよきん箱」第4学年の読書目標7000ページを達成した児童は1割程度でした。読書を宿題とするなどして、日常的に意識付ける必要があります。</li> </ul>
思考力・判断力・表現力	【問題解決的な学習】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題に対して、予想を立てて追求していく学習方法が身に付けられるよう、学習のめあてや課題をもち、ふり返るといった活動を継続的に行います。また、考えたことを自分の言葉で表現することを積み重ねます。</li> <li>意図的にグラフなどの資料を提示して問題解決学習を多く取り入れ、自分で解き方を考える時間を十分にとっていきます。</li> <li>調べたことなどをグラフや表、図鑑作りや新聞に表す学習などを多く取り入れ、情報や自分の考えを表現する力を高められるように指導していきます。【ノート指導】</li> <li>問題解決の筋道がわかるノート作りが行えるように指導していきます。ノートを定期的に評価して、モデルとなるノートを提示していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【問題解決的な学習】</li> <li>問題解決型の授業を、理科や社会などで展開しました。しかし、自分の言葉で表現することに慣れない児童も見られます。短くても自分の言葉で表現できるよう、また、友達のとめ方や表現の仕方を参考にして学ぶことができるよう指導を続けます。</li> <li>社会科の学習を中心に、資料の読み取りに力を入れて行いました。資料から読み取ったことの要点を、ノートに分かりやすく書くことができる児童が増えました。</li> <li>理科で「骨・筋肉新聞」、総合で「環境新聞」、行事で「学芸会新聞」など、調べたこと、インタビューしたことなどを基にまとめる学習を行いました。興味のあることを調べたり、友達の作品を見て学ぶ児童も見られました。【ノート指導】</li> <li>モデルとなるノートを児童に紹介し、レイアウトの仕方や要点のまとめ方を参考にすることができました。今後は、字を丁寧に書くよう、引き続き指導します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【問題解決的な学習】</li> <li>総合的な学習の時間の「オリ・パラ調査隊」では、イメージマップを書いて自分の思考を整理し、自分で立てた学習課題を解決するために、本や新聞、インターネットで資料を集めました。資料から読み取ったことを工夫してまとめたり、自分の意見を伝えたりすることができるようになった児童が増えました。集めた資料については、出典を明らかにしたり、情報の真偽を確かめるためにいくつかの資料を見比べて検討したりすることを指導しました。</li> <li>国語の「ポスターセッションしよう」では、聞き取りやすい声の大きさや正しい表現を意識して、相手に伝えようとする児童が増えました。意見交換をして知識を広げたり、理解を深めたりすることの楽しさを味わうことができました。</li> <li>【ノート指導】</li> <li>授業の初めにめあてや学習課題を書き、終わりにまとめを書いて学習内容を振り返りました。半数以上の児童は、自分の言葉で学習のまとめを書くことができますが、授業の要点を落とさずまとめる学習感想を自分の言葉で表現したりすることが難しい児童も少なくないため、個人の振り返りの後にグループやクラス全体で話し合うなどして、表現の仕方を参考にできるよう指導しました。</li> </ul>
	【問題解決的な学習】	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業が始まってから、短時間で集中できるようにするために、毎時間、学習のめあてや課題をノートに書かせ、声に出して読むことを指導し、習慣化できるようにしていきます。</li> <li>話すこと・聞くことの大切さを意識化させるために、聞いている人の方を向いて話すこと、相手の話を受けて話すこと、話している人の方を向いて聞いたりメモを取りながら聞いたりすることを指導していきます。</li> <li>既習事項の定着を図るために、宿題提出率100%を目指し、自主学習に進んで取り組めるようにします。そのために、家庭学習週間で自主学習を行う機会を設定して、段階的に自主学習の取り組み方やその内容を指導していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の初めにめあてをノートに書き、全体で声を出して読むことで学習の見通しがもてるように指導しました。今後は、学習のまとめを行う時間を設け、自分で振り返りができるよう指導します。</li> <li>学芸会もあり、伝わる言葉で相手に伝えようとする児童が増えました。しかし、ポイントを落とさず最後まで落ち着いて話を聞くことができず、同じ質問を何度も繰り返したり、やり方を間違えてやり直したりすることで、全体の学習進度が遅れてしまうことが課題です。今後は、どのような聞き方だと話し手が離しやすいのか、また、大事なポイントを落とさず聞くことができるのかを、クラス全体で話し合い、自分たちで聞き方の約束を決めて、全体が最後まで話を聞くことができるように指導します。</li> <li>宿題提出率は8割程度です。今後も、提出状況を本人に伝え、提出率100%を目指して指導を続けます。また、自主学習の取り組み方を指導し、テストに向けた学習や、興味のある分野の調べ学習などに取り組む児童が増えました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習計画を伝えたり、授業の初めにめあてを書いたりすることで、見通しをもって学ぶ児童が増えました。自主学習で、予習に取り組む児童も見られるようになりました。</li> <li>理科の自然観察や社会科見学の校外学習では、講師の話の要点をメモしながら聞き、自分で聞いた情報をふりかえりの学習に活かすことができる児童が増えました。</li> <li>宿題提出率は9割程度でした。家庭学習の習慣が身に付いている児童は、学習の定着がテストの点数などに反映するため自身の成長が自覚でき、励みになりました。また、自主学習をして苦手を克服したり、興味ある分野の知識を広げ、学ぶ楽しさを味わうことのできる児童も見られるようになりました。</li> <li>家庭学習期間中は、自主学習や読書などに取り組んで60分以上学習しようとする児童がほとんどです。今後は、自主学習が習慣化し日常的に学年×15分の学習に取り組めるようにすることが課題です。</li> </ul>
学習習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業が始まってから、短時間で集中できるようにするために、毎時間、学習のめあてや課題をノートに書かせ、声に出して読むことを指導し、習慣化できるようにしていきます。</li> <li>話すこと・聞くことの大切さを意識化させるために、聞いている人の方を向いて話すこと、相手の話を受けて話すこと、話している人の方を向いて聞いたりメモを取りながら聞いたりすることを指導していきます。</li> <li>既習事項の定着を図るために、宿題提出率100%を目指し、自主学習に進んで取り組めるようにします。そのために、家庭学習週間で自主学習を行う機会を設定して、段階的に自主学習の取り組み方やその内容を指導していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の初めにめあてをノートに書き、全体で声を出して読むことで学習の見通しがもてるように指導しました。今後は、学習のまとめを行う時間を設け、自分で振り返りができるよう指導します。</li> <li>学芸会もあり、伝わる言葉で相手に伝えようとする児童が増えました。しかし、ポイントを落とさず最後まで落ち着いて話を聞くことができず、同じ質問を何度も繰り返したり、やり方を間違えてやり直したりすることで、全体の学習進度が遅れてしまうことが課題です。今後は、どのような聞き方だと話し手が離しやすいのか、また、大事なポイントを落とさず聞くことができるのかを、クラス全体で話し合い、自分たちで聞き方の約束を決めて、全体が最後まで話を聞くことができるように指導します。</li> <li>宿題提出率は8割程度です。今後も、提出状況を本人に伝え、提出率100%を目指して指導を続けます。また、自主学習の取り組み方を指導し、テストに向けた学習や、興味のある分野の調べ学習などに取り組む児童が増えました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習計画を伝えたり、授業の初めにめあてを書いたりすることで、見通しをもって学ぶ児童が増えました。自主学習で、予習に取り組む児童も見られるようになりました。</li> <li>理科の自然観察や社会科見学の校外学習では、講師の話の要点をメモしながら聞き、自分で聞いた情報をふりかえりの学習に活かすことができる児童が増えました。</li> <li>宿題提出率は9割程度でした。家庭学習の習慣が身に付いている児童は、学習の定着がテストの点数などに反映するため自身の成長が自覚でき、励みになりました。また、自主学習をして苦手を克服したり、興味ある分野の知識を広げ、学ぶ楽しさを味わうことのできる児童も見られるようになりました。</li> <li>家庭学習期間中は、自主学習や読書などに取り組んで60分以上学習しようとする児童がほとんどです。今後は、自主学習が習慣化し日常的に学年×15分の学習に取り組めるようにすることが課題です。</li> </ul>	